

2011年4月12日 - フランスの映画産業は2010年、3億3000万ユーロの売上高を記録したが、うち1億3700万ユーロは輸出によるものであった。芸術作品や大衆映画、アニメーションなどすべてのジャンルを含め、国外へ輸出された作品数は、輸入数より11作品上回った。アニメーション映画についていえば、フランスは特殊効果や3Dで世界的な評価を得ている。マック・ガフ(Mac Guff)、バフ(Buf)、ミクロス(Mikros)など、フランスの制作スタジオが評判を高めている。

フランスは、カンヌ映画祭やドーヴィル・アメリカ映画祭を通じて世界中の映画産業の発展に貢献している。フランスは映画やオーディオビジュアル作品の制作には好適な国の一つである。フランスは、年間 200 本もの長編映画を生み出す映画生産大国である。FEMIS(フランス国立映画学校)は、映像と音響の専門校として、その優れた技術は海外でも広く知られているが、ここで教育を受けた技術者のノウハウを作品に生かすことができる。

イル・ド・フランスや PACA*の制作スタジオに加え、近年リールやリヨンにも新しいスタジオが建設され、フランスの映像制作環境はより一層充実した。これにより、世界放映をめざす映画製作の受け入れも可能だ。屋外の撮影においてフランスの景観や歴史的・文化的遺産は有力な武器の一つである。

またフランスは、映画の復興・保存に関していえば、第一級の資源を有している。シネマテーク・フランセーズは第 7 芸術とよばれる映画に関して、世界最大級のデータベースを有している。INA(フランス国立視聴覚研究所)は、あらゆる分野の映像、音響の製作育成、そして研究・開発活動を展開している。

2009 年、外国企業による映画制作に対して、全部または一部がフランスで撮影される場合に適用される**国際税額控除(TRIP)**が導入され、外国映画の撮影にとってフランスの魅力は一層大きなものとなった。これは支出の 20%に該当する税額が控除されるというものだが、導入以後、31 の外国作品(撮影、アニメーション、デジタル処理・視覚効果)がその恩恵を受けた。うち 12 作品は全部もしくは一部の撮影をパリで行い、これ以外は PACA、ピカルディ、ブルターニュ、ローヌ・アルプおよびグアドループで撮影が行われた。

該当する外国作品の製作予算はこの数年で 5 倍に増加(2008 年の 1000 万ユーロから 2009-2010 年には 5000 万ユーロとなった)。BBC は「魔術師マーリン」シリーズをフランスで撮影することを決定し、さらにクリント・イーストウッド「ヒアアフター」、マーティン・スコセッシ「ユゴー・カブレ/(邦題)ユゴーの不思議な発明」、ウディ・アレン「ミッドナイト・イン・パリ」など米国の映画監督がフランスでの撮影を決定した。

撮影地には、撮影日数に応じた経済効果(機材レンタル料、宿泊、ポストプロダクションなど)が生まれる。2008 年から 2010 年にかけて、総撮影日数は、92 日から 210 日に推移した。また同期間で、長編作品の平均撮影日数は、6 日から 14 日に増加した。

「欧州第 1 位とされるフランス映画産業は依然活発で衰える気配はない。2009 年にフランスで撮影を行う外国映画製作者に対する国際税額控除制度を導入され、映画産業におけるわが国の地位が強化された。実際、外国の長編作品の撮影日数は 2 年で倍増した。これらの作品は、我国の遺産の豊かさ、多様性そして魅力について海外での認知度を高めるきっかけとなっている」と対仏投資庁長官ダビッド・アピアは指摘している。

※(訳注)PACA地域圏:プロヴァンス地方のほぼ全域が、フランスの地域圏でいう「プロヴァンス=アルプ=コート・ダジュール地域圏」にあたり、PACA(パカ)と略される。

対仏投資庁(略称 AFII)

フランスへの国際投資誘致、進出企業向け支援を担当する国の機関。全世界におよぶネットワークで機能し、フランス全土の地方経済開発局との連携により、外国企業にビジネスチャンスを提供、ニーズに応じたサービスを提供している。詳細情報はウェブサイトをご参照ください。<http://www.investinfrance.org/jp/>

詳細については、以下へお問い合わせ下さい。

在日フランス大使館 対仏投資庁 広報担当ジェレミ・エルヴェ(Jérémy HERVÉ) TEL: 03-5798-6144 (直通)
フランス大使館企業振興部 - ユビフランス 広報室 TEL: 03-5798-6127